

教養科目（平成31年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格(教職)	資格(食品衛生監視員)	摘要			
基盤教育群	基礎力養成	60010 基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋						
		大益 史弘											
		沼山 博											
		北林 蒔子											
		山口 光枝											
		江口 智美											
	60020 キャリアデザイン	①	8	1	前期	西村恵美子							
	地域学	60111 山形の食と歴史	②	15	1	前期	上野・青木						
	外国語	英語	60210 英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫					
			英語Ⅱ	①	15	2	前期	北山 長貴					
英会話		60230 英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ブライアン・ジエニングス	○					
		英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ブライアン・ジエニングス	○					
情報処理		60310 情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太						
		60320 基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○					
	60330 応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○						
保健体育	60410 体育理論	①	15	1	前期	鹿俣 修	○	①					
	60420 体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡							
	体育実技Ⅱ	1	15	2	後期	加藤 守匡							
教養教育群	人間と文化・社会	60510 心理学	②	15	1	後期	沼山 博			集中			
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博						
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	後期	阿部 晃士						
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋						
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学				○	短大と合同授業	
		60560 企業論	2	15	1・2・3・4	後期	松下 幸生						
		異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子						
		国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学					短大と合同授業	
	人間と自然	60611 微生物学	②	15	1	前期	熊田 薫	○	集中				
		60620 自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘	○					
		60630 自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹						
		60640 自然科学演習	1	15	1	後期	大益 史弘	○					
60650 統計学		2	15	1	前期	鈴木 久美							

※ ○数字は必修単位 } ○は選択必修科目

※ 2年次以降の担当者はH31年度のものであり、変更される可能性があります。

教養科目（平成30年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格(教職)	資格(食品衛生監視員)	摘要	
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋				
		〃					大益 史弘				
		〃					加藤 守匡				
		〃					沼山 博				
		〃					北林 蒔子				
		〃					山口 光枝				
		〃					江口 智美				
	キャリアデザイン	①	8	1	前期	金谷 由希 西村恵美子					
	地域学		1 1	8 8	1 1	前期 後期	上野 和子 青木 昭博				
	外国語	60220	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			
英語Ⅱ			①	15	2	前期	北山 長貴				
英会話Ⅰ			①	15	1	後期	ジェリー・ミラー	○			
60240		英会話Ⅱ	1	15	2	後期	グライアン・ジェンクス	○			
情報処理		情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太				
		基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○			
		応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○			
保健体育	60430	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○			
		体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	①			
		体育実技Ⅱ	1	15	2	後期	加藤 守匡				
教養教育群	人間と文化・社会	60520 心理学	②	15	1	後期	沼山 博				
		60530 コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博			集中	
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	後期	阿部 晃士				
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋				
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		短大と合同授業	
		60560 企業論	2	15	1・2・3・4	後期	松下 幸生				
		異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子				
	国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業		
	人間と自然	60620	微生物学	②	15	1	前期	熊田 薫		○	集中
			生命科学	2	15	1	前期				本年度開講せず
自然科学Ⅰ（化学）			2	15	1・2	前期	大益 史弘		○		
自然科学Ⅱ（生物学）			2	15	1・2	前期	佐塚 正樹				
自然科学演習			1	15	1	後期	大益 史弘		○		
		統計学	2	15	1	前期	鈴木 久美				

※ ○数字は必修単位 } ○は選択必修科目

※ 2年次以降の担当者はH31年度のものであり、変更される可能性があります。

教養科目（平成29年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格(教職)	摘要
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	沼山 博		
		〃					安部 貴洋		
		〃					大益 史弘		
		〃					加藤 守匡		
		〃					金光 秀子		
		〃					山口 光枝		
		〃					金谷 由希		
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	江口 智美 西村恵美子		
	地域学	山形の食と健康 山形の歴史と文化	1 1	8 8	1 1	前期 後期	上野 和子 青木 昭博		
	外国語	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英会話Ⅰ 英会話Ⅱ	① ① ① 1	15 15 15 15	1 2 1 2	前期 前期 後期 後期	阿部 隆夫 北山 長貴 ジェリー・ミラー ジェリー・ミラー	○ ○	
情報処理	情報基礎 基礎情報処理演習 応用情報処理演習	② 1 1	15 15 15	1 1 2	前期 後期 前期	小池 隆太 伊豆田義人 伊豆田義人	○ ○		
保健体育	体育理論 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	① 1 1	15 15 15	1 1 2	前期 後期 前期	加藤 守匡 加藤 守匡 加藤 守匡	○ ①		
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	沼山 博		
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博		
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	後期	阿部 晃士		集中
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋		
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○	短大と合同授業
		60560 企業論	2	15	1・2・3・4	後期	松下 幸生		
	60570 異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
	60580 国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学		短大と合同授業	
	人間と自然	生命科学	②	15	1	前期	一瀬 白帝		
		自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		
自然科学Ⅱ（生物学）		2	15	1・2	前期	鈴木 一憲			
自然科学演習		1	15	1	前期	大益 史弘			
統計学		2	15	1	後期	鈴木 久美			

※ ○数字は必修単位 } ○は選択必修科目

※ 3年次以降の担当者はH31年度のものであり、変更される可能性があります。

教養科目（平成28年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格(教職)	摘要	
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	沼山 博			
		〃					安部 貴洋			
		〃					大益 史弘			
		〃					加藤 守匡			
		〃					金光 秀子			
		〃					山口 光枝			
		〃					金谷 由希			
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	江口 智美			
	地域学	山形の食と健康	1	} ①	8	1	前期	上野 和子		
		山形の歴史と文化	1		8	1	後期	青木 昭博		
外国語	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫				
	英語Ⅱ	①	15	2	前期	阿部 隆夫				
	英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ジェリー・ミラー	○			
	英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ジェリー・ミラー	○			
情報処理	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太				
	基礎情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○			
	応用情報処理演習	1	15	2	前期	伊豆田義人	○			
保健体育	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○	} ①		
	体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡				
	体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡				
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	沼山 博		集中	
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博			
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	後期	阿部 晃士			
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		
		60560 企業論	2	15	1・2・3・4	後期	松下 幸生			
		60570 異文化理解	2	} ②	15	3・4	前期	村瀬 桃子		
	60580 国際関係論	2	15		3・4	後期	堀田 学			
	人間と自然	生命科学	②	15	1	前期	高橋 和昭		短大と合同授業	
		自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘			
	自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	鈴木 一憲				
	自然科学演習	1	15	1	前期	大益 史弘				
	統計学	2	15	1	後期	鈴木 久美				

※ ○数字は必修単位 } ○は選択必修科目

講義科目名称：山形の食と歴史（60111）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
青木昭博・上野和子			
基盤教育群	地域学		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>1 山形県は大きく4つの地域に分かれ、それぞれ特徴的な食文化が存在する。多彩で豊かな在来作物や伝統野菜、様々な行事に伴う郷土料理など、地域に根ざした食の文化を学ぶとともに、山形県の食生活の現状、並びに食育・地産地消推進についての理解も深める。また、農業体験を通し、農産物を食生活の中に多様に活用できる人材を育てる。</p> <p>2 山形県および米沢市の歴史と文化について、その概要を画像や資料などから学び、地域の特徴を理解すると共に、地域に対する興味や愛着心を深める。</p> <p>3 地産地消の取り組みや鷹山公の「かてもの」を紹介し、先人の知恵を学ぶ。</p>		
授業計画	第1回	山形県の食の現状と食育・地産地消の取り組みについて（担当：上野）	
	第2回	山形の自然と風土（きてけるくん・校歌と県民歌・庄内と内陸）（担当：青木）	
	第3回	原始・古代の山形（縄文の女神・彩色土器・山形の古墳）（担当：青木）	
	第4回	特色ある山形県の食材と料理～置賜・村山地方の農産物を中心に～（担当：上野）	
	第5回	農業体験学習 農産物の栽培を体験（担当：上野）	
	第6回	山形の中世と戦国時代（山形の荘園・山形の仏像・最上義光と伊達政宗）（担当：青木）	
	第7回	山形の近世の諸相（最上川と紅花・出羽三山・奥の細道）（担当：青木）	
	第8回	直江兼統と城下町米沢（城下町米沢の構造と特色・町並みの推移）（担当：青木）	
	第9回	特色ある農水産物～最上・庄内地域を中心に～（担当：上野）	
	第10回	上杉鷹山と米沢藩の改革（なせばなる・漆の実のみのる国・伝国の詞・かてもの）（担当：青木）	
	第11回	他県の郷土料理や農水産物について意見交換～その違いや共通点をレポートにまとめる～（担当：上野）	
	第12回	山形県の成立と近代山形（土木県令・東洋のアルカディア・米沢工業高等学校）（担当：青木）	
	第13回	ゲストスピーカーによる講話～地域の地産地消の様々な取り組み～（担当：上野）	
	第14回	現代の山形の姿と課題、そして未来（「はえぬき」「つや姫」「雪若丸」・山形新幹線）（担当：青木）	
	第15回	農業体験 収穫をとおい食物の働きと健康を学ぶ（担当：上野）	
成績評価・方法	レポート(2本)：70%、授業への参加度(発言他)：30%		
授業概要	山形県において昭和53年度より数年ごとに実施している「山形県民の栄養調査」による食生活の現状と平成34年度まで実施される「健康やまがた安心プラン」の理解、および地域における食の特徴等を「山形の食と歴史」として学ぶ。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	新聞やニュースをチェックし、地域を取り巻く問題に興味・関心を持つこと。		
教科書	教科書はなし 必要に応じ資料を配布する		
参考文献	『山形県の歴史散歩』（山川出版社） 『山形県謎解き散歩』（新人物往来社文庫） 『代表的日本人』（岩波文庫） 「かてもの」をたずねる 高垣順子著 「農と食」山形県検定テキスト 「山形県の郷土料理」		
履修条件			
備考			

講義科目名称：基礎ゼミナール（60010）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
安部 ・ 大益 ・ 沼山 ・ 北林 ・ 山口 ・ 江口 ・ 金谷			
基盤教育群	基礎力養成		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：大学での生活や学習に慣れる</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学科内における人間関係を構築し、自由に議論できる雰囲気を作る。 2) テーマを設定して、情報収集し、レポート作成することができる。 3) プレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションすることができる。 4) 学内資源の利用法を理解できる 5) 大学の講義の受け方やノートの取り方、学習の仕方について自分なりに説明ができる。 6) 専門を支える教養を高めることに興味を持てる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 リレーションづくり(1) ゲームを通して、お互いを知る</p> <p>第3回 リレーションづくり(2) 語り合い等を通して、お互いを知る</p> <p>第4回 大学の講義とノートテイキング</p> <p>第5回 研究テーマに即したレポート作成(1) 研究テーマ設定のための情報収集</p> <p>第6回 研究テーマに即したレポート作成(2) レポート作成のための情報収集</p> <p>第7回 研究テーマに即したレポート作成(3) レポート作成</p> <p>第8回 研究テーマに即したレポート作成(4) レポート作成と推敲</p> <p>第9回 専門を支える教養に関心を持つ(1)</p> <p>第10回 専門を支える教養に関心を持つ(2)</p> <p>第11回 専門を支える教養に関心を持つ(3)</p> <p>第12回 プレゼンテーション資料の作成 プレゼンテーション資料の作成</p> <p>第13回 プレゼンテーションの練習</p> <p>第14回 プレゼンテーションとディスカッション(1)</p> <p>第15回 プレゼンテーションとディスカッション(2)</p>
成績評価・方法	授業への取り組み40%、レポート30%、プレゼンテーション30%
授業概要	次の①～④を行う。①学生同士・教員の交流を深め、学生の自覚と学習意欲を高める。②少人数クラスによるゼミ形式とし、ノートの取り方、レポートの書き方、図書館の使い方、文献検索の方法等のスタディスキルを習得する。③論理的思考や発表技法を学ぶためプレゼンテーションやディスカッションを行い、コミュニケーション能力を身に付ける。④関連領域のゲストスピーカーによる講話を聴き、専門を支える教養を高めることに興味を持つための機会も持つ。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	課題レポート、プレゼンテーション用の資料の作成を行うこと。講義以外でもゼミ生を中心に、学生同士で積極的にかかわりをもつようにすること。
教科書	適宜資料を配布する。
参考文献	学習技術研究会編「知へのステップ」（くろしお出版）
履修条件	伊豆田義人先生「基礎情報処理演習」を必ず履修し、必要なスキルを身につけておくこと。
備考	レポートやプレゼンテーション・データの提出締切を守ること。 ゼミごとの活動の詳細についてはゼミ担当教員より指示を受けること。 ゲストスピーカーの都合等により授業計画に変更が生じる場合があるので、連絡に注意すること。

講義科目名称：キャリアデザイン（60020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
西村 恵美子			
基盤教育群	基礎力養成		授業形態：講義・演習
授業のテーマ及び到達目標	<p><授業のテーマ及び到達目標> 「キャリア」について考え、様々な場面や人との関わりの中で基本となるコミュニケーション能力等の社会人基礎力の形成をめざす。特に、社会人となるために早期から自己分析をすることで、適職の選択に繋がってくる。自己分析により自分自身を理解し、将来の自分像を見据えた様々な能力形成に努め、職業選択と社会人としての活動計画と捉える。</p> <p>本講義では、管理栄養士等の具体的な職業像をイメージしながら、実務経験者の助言のもと、「キャリア」を「デザイン」し、社会人として多方面で活動できる人材育成につながることを目指す。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨンー「キャリアデザイン」とは何か</p> <p>第2回 人間関係の形成ー「自己分析」と「他者理解」</p> <p>第3回 人間関係の形成ーグループワーク①</p> <p>第4回 多様な職業から「職域」と「専門領域」を考える</p> <p>第5回 職業選択と自己PRーグループワーク②</p> <p>第6回 ライフプランニングー「目標設定」と「行動計画」</p> <p>第7回 求められる人材ー「社会人としての適性」と「自己評価」</p> <p>第8回 自分にとっての「キャリアデザイン」ー発表とまとめ</p>		
成績評価・方法	レポート80%、受講態度評価20%（職業選択に対する意欲や行動力）		
授業概要	<p>将来の職業人として身に付けるべき基本を、実践例を交えた講義内容で進める。食と栄養の専門職としての職域ごとに具体的な業務内容を学び、個々の適正に応じた職業領域の選択に繋げる。そのために必要な自己分析やライフプラン等、先の就職活動に向けた基礎を学ぶ。さらに、グループワークや自己PRを実践し、管理栄養士・栄養士の将来像を目指すための学習の場とする。</p>		
実務経験及び授業の内容	公務員として長きにわたる管理栄養士の実務経験があり、多方面の専門領域について実践的な授業を行う。		
時間外学習	自己PR用の名刺作成や様々な職域、職種について調査研究をすること。		
教科書	毎回、授業概要（レジュメ）を配布する。		
参考文献	公益社団法人日本栄養士会発行 就職前セミナーなど		
履修条件			
備考			

講義科目名称：山形の食と健康（60110）H28年度入学生用

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
上野 和子			
基盤教育群	地域学		授業形態：講義
授業のテーマ及び到達目標	<p>・山形県は大きく4つの地域に分かれ、それぞれ特徴的な食文化が存在する。多彩で豊かな在来作物や伝統野菜、様々な行事に伴う郷土料理など、地域に根ざした食の文化を学ぶとともに、山形県の食生活の現状、並びに食育・地産地消推進についての理解も深める。また、農業体験を通し、農産物を食生活の中に多様に活用できる人材を育てる。</p> <p>・多彩なゲストスピーカーにより、特に鷹山公の「かてもの」や地産地消の取り組みを紹介し、先人の知恵を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 山形県の食の現状と食育・地産地消の取り組みについて</p> <p>第2回 特色ある山形県の食材と料理 ～置賜・村山地方の農産物を中心に～</p> <p>第3回 農業体験学習 農産物の栽培を体験</p> <p>第4回 特色のある農水産物 ～最上・庄内地域を中心に～</p> <p>第5回 上杉鷹山と米沢藩の改革 なせばなる・漆の実のみのる国・伝国の詞・かてもの</p> <p>第6回 他県の郷土料理や農水産物について意見交換 ～その違いや共通点をレポートにまとめる～</p> <p>第7回 ゲストスピーカーによる講話 ～地域の地産地消の様々な取り組み～</p> <p>第8回 農業体験 収穫をとおり食物の働きと健康を学ぶ</p>		
成績評価・方法	<p>テスト 30%、レポート 60%、体験学習への積極的な参加及び意見交換での発言等授業への取り組みについて 10%</p>		
授業概要	<p>山形県において昭和53年度より数年ごとに実施している「山形県民の栄養調査」による食生活の現状と平成34年度まで実施される「健康やまがた安心プラン」の理解、および地域における食の特徴等を「山形の食と健康」として学ぶ。</p>		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<p>新聞やニュースをチェックし、地域を取り巻く問題に興味・関心を持つこと。</p>		
教科書	<p>教科書は特になし 講師の準備する資料による</p>		
参考文献	<p>「かてもの」をたずねる 高垣順子著 「農と食」山形県検定テキスト 「山形県の郷土料理」</p>		
履修条件			
備考			

講義科目名称：山形の歴史と文化（60120）H28年度入学生用 授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
青木 昭博			
基盤教育群	地域学		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	4年間学習し生活する場（地域）である山形県および米沢市の歴史と文化について、その概要を画像や資料などから学び、地域の特色を理解すると共に、地域に対する興味や愛着心を深める。
授業計画	<p>第1回 山形の自然と風土（きてけるくん・校歌と県民歌・庄内と内陸）</p> <p>第2回 原始・古代の山形（縄文の女神・彩色土器・山形の古墳）</p> <p>第3回 山形の中世と戦国時代（山形の荘園・山形の仏像・最上義光と伊達政宗）</p> <p>第4回 山形の近世の諸相（最上川と紅花・出羽三山・奥の細道）</p> <p>第5回 直江兼統と城下町米沢（城下町米沢の構造と特色・町並みの推移）</p> <p>第6回 上杉鷹山と米沢藩の改革（なせばなる・漆の実のみのる国・伝国の詞・かてもの）</p> <p>第7回 山形県の成立と近代山形（土木県令・東洋のアルカディア・米沢工業高等学校）</p> <p>第8回 現代の山形の姿と課題、そして未来（「はえぬき」「つや姫」「雪若丸」・山形新幹線）</p>
成績評価・方法	レポート40%、態度60%（毎回提出してもらう講義に対する質問・感想用紙の内容）
授業概要	山形県の歴史と風土について学ぶ。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュースをチェックし、地域を取り巻く問題に興味・関心を持つこと。
教科書	教科書はなし。各回資料配布。 『山形県の歴史散歩』（山川出版社） 『山形県謎解き散歩』（新人物往来社文庫） 『代表的日本人』（岩波文庫）
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：英語 I (60210)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
阿部 隆夫			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	三個の主題に沿って進める。第一は、自然科学関係の英語の文章を効率的に読みこなす練習をすることである。第二は、英語圏を中心に異文化に関する資料を読みながら語彙を増やすことである。第三には、今後日本で起こりうる異文化間の交流に必要なコミュニケーション技術を習うことである。		
授業計画	第1回	BH Unit 1, 異文化 Case 1-2 心身を育む朝食、英語における呼称の文化的問題	
	第2回	BH Unit 2, TOEIC Questions 1-10 健康の秘訣、TOEIC 写真問題	
	第3回	BH Unit 3, 異文化 Case 3-4 笑いの健康面の効用、英語圏で知らない人と話す際の習慣	
	第4回	BH Unit 4, TOEIC Questions 11-20 フランス人が太らない理由、TOEIC 応答問題	
	第5回	BH Unit 5, 異文化 Case 5-6 アメリカでの寿司とわさび、英語圏でのあいさつとスピーチ	
	第6回	BH Unit 6, TOEIC Questions 21-30 納豆の効用、TOEIC 応答問題	
	第7回	BH Review, 異文化 Case 7-8 緑茶の効用、パーティー・会食の英語コミュニケーション文化	
	第8回	BH Unit 7, TOEIC Questions 31-40 急性アルコール中毒、TOEIC 会話問題	
	第9回	BH Unit 8, 異文化 Case 9-10 いびきの健康問題、贈り物、お礼の英語習慣	
	第10回	BH Unit 9, TOEIC Questions 41-50 質の良い睡眠、TOEIC 会話問題	
	第11回	BH Unit 10, 異文化 Case 11-12 チョコレートの効用、依頼、電話の英語文化	
	第12回	BH Unit 11, TOEIC Questions 51-60 加工食品の問題、TOEIC 会話問題	
	第13回	BH Unit 12, 異文化 Case 13-14 遺伝子組み換え食品の安全度、招待する・招待される英語圏の習慣	
	第14回	BH Unit 13, TOEIC Questions 61-70 アレルギー反応、TOEIC スピーチ問題	
	第15回	BH Review, 異文化 Case 15-16 アボカドの効用、複雑状況コミュニケーションと単純状況コミュニケーション	
成績評価・方法	小テスト30%、期末試験40%、提出課題15%、復習音読15% 他、TOEIC公式会場テストを受験し一定の点数を取得した場合は努力点として加味する		
授業概要	英語の社会言語文化を題材にしながら、聞く・話す・読む・書くという基本四技能に加え、それを統括する5番目の技能である異文化間コミュニケーション能力を養う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	隔週回で授業の開始時に書き取り試験 (dictation) を実施するので、教科書の本文を音声データを聞きながら正確に音読する練習が必要である。		
教科書	Toshiaki Nishihara, Better Health for Every Day (金星堂2014年)[上記BHと略記]; タカオ・アベ『ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2012年) [「異文化」と略記]; 公式TOEIC Listening&Reading 問題集4 (TOEICと略記)		
参考文献			
履修条件			
備考			

講義科目名称：英語Ⅱ（60220）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
北山 長貴			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 基本英文法の確認と構文把握の練習により専門的な表現を含む英語の読解力をつけること。 2. 英語圏での食についての一般的な知識を得ること。
授業計画	<p>第1回 はじめに：英語の構文について</p> <p>第2回 英文記事の読み方、記事：“The Five Food Groups”</p> <p>第3回 The Five Food Groups workshop</p> <p>第4回 論文1：“Fruit and Vegetable Preference and Identification”</p> <p>第5回 Fruit and Vegetable workshop</p> <p>第6回 論文2：“Energy Drink Consumption in Young People”</p> <p>第7回 論文3：“Sugar Beverage Consumption among Lower-Income Children”</p> <p>第8回 メニュー：アメリカのレストランのメニューを読む</p> <p>第9回 メニュー発表：アメリカのレストランのメニューについてのグループ発表</p> <p>第10回 論文4：“A Beverage and Fruit/Vegetable Education in University Dining Hall”</p> <p>第11回 論文5：“Have a Food-Safe Holiday Season”</p> <p>第12回 映画：「食」に関する映画を鑑賞し食について考える</p> <p>第13回 クーポン：アメリカの新聞広告を資料に食に関する英語の表現を理解する</p> <p>第14回 クーポン発表：アメリカの広告に見る食に関する英語表現と文化についての個人発表</p> <p>第15回 まとめ：食をテーマとした英語表現について</p>
成績評価・方法	授業への参加度：2回のプレゼンテーション（30％）と試験（70％）の総合評価
授業概要	「食」に関する英文記事と食物関係の論文のIntroduction（概要）を合計6本読みます。また、英語圏の食に係る文化理解の資料を紹介しその内容をグループと個人で2回発表してもらいます。
実務経験及び授業の内容	県立高等学校教諭の実務経験があり、この経験を生かし英語Ⅱの授業を行う。
時間外学習	専門的な用語等を授業前までに辞書等を参照し予習をしておくこと。
教科書	プリントを用意します。
参考文献	辞書を教室に持ってきてください。（電子辞書も可）
履修条件	
備考	予習用のノートを1冊用意してください。

講義科目名称：英会話 I (60230)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
Bryan Jennings			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	このクラスでは、世界史に関するいくつかのトピックについて学びます。これらの歴史的なトピックを使用して、ディスカッションや会話をします。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 世界歴史のトピック 1</p> <p>第3回 国際文化のトピック 1</p> <p>第4回 世界歴史のトピック 2</p> <p>第5回 国際文化のトピック 2</p> <p>第6回 世界歴史のトピック 3</p> <p>第7回 国際文化のトピック 3</p> <p>第8回 プレゼンテーション 1</p> <p>第9回 世界歴史のトピック 4</p> <p>第10回 国際文化のトピック 4</p> <p>第11回 世界歴史のトピック 5</p> <p>第12回 国際文化のトピック 5</p> <p>第13回 世界歴史のトピック 6</p> <p>第14回 国際文化のトピック 6</p> <p>第15回 プレゼンテーション 2</p>
成績評価・方法	プレゼンテーション1: 25%, プレゼンテーション2:25%, 参加:25%, 小テスト:25%
授業概要	学生は講義で使用する国際的な歴史と文化についての資料をダウンロードし、次の週にグループでディスカッションを行います。また、話し合ったトピックについて2回のプレゼンテーションをしなければなりません。
実務経験及び授業の内容	山形大学での英会話の指導経験を生かし、面白いトピックを使って役に立つ英語のフレーズを授業に取り入れていきます。また、ペアで英語の会話を練習する機会を設けます。
時間外学習	ディスカッションの前に、学習してきた歴史や文化についての事前学習を行ってください。
教科書	無し。資料を使います。
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：英会話Ⅱ（60240）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
Bryan Jennings			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	このクラスでは、ペアで面白いトピックについて会話をします。また、役に立つフレーズを学び、それらを練習します。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	トピック 1	
	第3回	トピック 1	
	第4回	トピック 2	
	第5回	トピック 2	
	第6回	トピック 3	
	第7回	スピーキングテスト 1 の準備	
	第8回	スピーキングテスト 1	
	第9回	トピック 4	
	第10回	トピック 4	
	第11回	トピック 5	
	第12回	トピック 5	
	第13回	トピック 6	
	第14回	スピーキングテスト 2 の準備	
	第15回	スピーキングテスト 2	
成績評価・方法	スピーキングテスト1:25%, スピーキングテスト2:25%, 参加:25%, 小テスト:25%		
授業概要	学生は授業の前に配布資料をダウンロードし、その情報を確認します。それからクラスでこれらのフレーズを練習します。情報に関する5つの小テストがあります。また、英語での2分間の会話で構成される2つのスピーキングテストがあります。		
実務経験及び授業の内容	山形大学での英会話の指導経験を生かし、面白いトピックを使って役に立つ英語のフレーズを授業に取り入れていきます。また、ペアで英語の会話を練習する機会を設けます。		
時間外学習	授業の前と後で、クラスで学習したフレーズを練習するようにしてください。		
教科書	無し。資料を使います。		
参考文献			
履修条件			
備考			

講義科目名称：情報基礎（60310）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
小池 隆太			
基盤教育群	情報処理		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>情報学の基礎理論を前提に、現代の情報化社会がどのようなシステムに支えられているのかを知り、さらに情報セキュリティや著作権をはじめとした知的財産権の概念と制度をあわせて理解することで、技術と制度の両側面から現代社会における「情報」の重要性を学ぶことをテーマとします。</p> <p>到達目標としては、ネットワークを含めたデジタル技術ならびに情報をめぐる諸制度について、実社会での活用と運用をめぐる課題を捉えることができる視点を養ってもらえればと考えています。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン アナログとデジタル</p> <p>第2回 情報の記号性と情報環境</p> <p>第3回 コンピュータと情報システムの歴史</p> <p>第4回 コンピュータの構造</p> <p>第5回 入出力インターフェースと記憶装置</p> <p>第6回 アルゴリズムとプログラミング</p> <p>第7回 インターネットの歴史と仕組み</p> <p>第8回 マルチメディアとコンテンツ配信</p> <p>第9回 移動体通信とソーシャルメディア</p> <p>第10回 情報セキュリティ</p> <p>第11回 個人情報の管理とメディアリテラシー</p> <p>第12回 著作権</p> <p>第13回 知的財産権</p> <p>第14回 デジタル・デバイスとユニバーサル・デザイン</p> <p>第15回 アクセシビリティと制度</p>
成績評価・方法	課題（授業中に提出）40%、期末レポート60%
授業概要	<p>本講義では、情報化社会に必要な情報処理技術の基礎知識を学び、情報システムの活用と情報の発信に求められる基本的な概念の習得をはかります。具体的には、デジタルデータとコンピュータの構造、情報システムとネットワーク、情報セキュリティ、メディアリテラシー、知的財産権・著作権の保護、個人情報の管理等について学ぶことで、技術的観点と制度的観点の双方から現代社会における情報システムの役割について理解することになります。</p>
実務経験及び授業の内容	<p>第一種情報処理技術者（旧通商産業省）の国家資格を有し、プログラマ/システムエンジニアとしての実務経験があります。その経験を反映したシステムの解説を行います。</p>
時間外学習	<p>私たちが社会生活において活用している各種のシステムや情報・知的財産権に関する制度について観察・解説してもらった課題を行います。</p>
教科書	資料プリントを適宜配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：基礎情報処理演習（60320）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
基盤教育群	情報処理		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本演習では、情報化社会に生きていくための必須の情報処理の基礎知識および必要不可欠な活用能力を身につける。情報活用の基礎知識として、情報システムの使い方やインターネットによる情報収集、メールシステムの利用のほか、ブラインドタッチの基本や文書作成ソフト（ワード）、データ活用（表計算ソフト・エクセル）とプレゼンテーションソフト（パワーポイント）の活用方法を習得する。		
授業計画	第1回	学内情報システムの紹介と機器の使い方。個人Eメール等のネットワークシステムの設定等 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。	
	第2回	ブラインドタッチの基本的なスキル取得。キーボードのホームポジション、上・下段の練習	
	第3回	文書作成－その1。ソフトの基本操作やデータの入力と書式の設定、文字のみの文書の作成	
	第4回	文書作成－その2。図形文書の基本的な事項。図形文書作成と編集。パンフレットの作成	
	第5回	文書作成－その3。表の作成・編集。文中の表、および表としてのページ。表を用いた文書	
	第6回	文書作成－その4。本と論文の原型。見出しや図表式の目次や索引、脚注等を有する文書	
	第7回	文書作成－その5。ビジネス文書の基本的な事項。種々のビジネス文書の作成、編集、管理	
	第8回	データ活用－その1。ソフトの基本操作。データの入力、表の作成や編集、書式の設定	
	第9回	データ活用－その2。計算式の挿入。四則演算や合計、平均などの基本的な数式の使い方	
	第10回	データ活用－その3。情報の参照。表間やファイル間のデータのやり取りと参照と処理	
	第11回	データ活用－その4。集計。大量の数字データに対する一元的なデータの集計やクロス集計	
	第12回	データ活用－その5。グラフによる情報の可視化。グラフの作成、編集と書式の設定	
	第13回	データ活用－その6。総合問題	
	第14回	プレゼンテーション。ソフトの基本的な操作やスライドの作成・編集・設定を学習	
	第15回	画像処理ソフトの基本。画像の加工、補正、編集、合成等について学習	
成績評価・方法	入力課題：5回 x 5点 = 25点。※未提出または未完成課題が一つ以上の場合、『入力課題=25点満点中0点』 授業課題：14回 x 2点 = 28点。 まとめの課題：2回 x 6点 = 12点。 期末課題：35点。		
授業概要	授業でのタイピング訓練は最初の2回ほどのみで、それ以降は各自で放課後等の時間に与えられた長文を入力して宿題を提出する。実践的な問題を解きながら文書作成ソフトおよび表計算ソフトの活用方法を学習する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、この科目では社会で求められている様々なスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。		
教科書	指定しない（授業中に適宜資料を配布する）。その都度、授業内容に適した参考書を指定する。		
参考文献	初回に紹介する。		
履修条件			
備考			

講義科目名称：応用情報処理演習（60330）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
基盤教育群	情報処理		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本演習では、統計学に基づくデータ分析の方法を学習する。統計分析ソフトを活用しながら統計学における様々な「仮説検定」と「解析方法」を学ぶ。到達目標は情報の客観的に分析することでデータの処理および読み解く力を身につけることである。		
授業計画	第1回	ガイダンス、ソフト環境の整備 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。	
	第2回	データの整理（ヒストグラム）等	
	第3回	基本的な統計量	
	第4回	仮説検定の基本、p値の計算	
	第5回	検定1：F-検定（等分散の検定）、t-検定（平均値の検定）	
	第6回	検定2：t-検定（平均値の検定）（続）	
	第7回	検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）	
	第8回	検定4：X ² 適合度検定（比率の検定）、その他の検定	
	第9回	解析方法1：相関分析、回帰分析	
	第10回	解析方法2：重回帰分析	
	第11回	解析方法3：判別分析	
	第12回	解析方法4：ロジスティック分析	
	第13回	解析方法5：生存分析	
	第14回	解析方法5：クラスター分析・FA分析（因子分析）	
	第15回	解析方法6：コレスポンデンス分析	
成績評価・方法	小テスト：14回 x 3点 = 42点。 授業課題：14回 x 2点 = 28点。 期末課題：30点。		
授業概要	毎回、事前学習用の課題等を与えて、授業時間の最初に小テストを実施するので、授業では「小テスト」と「解説」を行って、課題や問題等の作成は宿題とする。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では、2時間の事前学習、2.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、今後の学習等でも必要になるスキルなので、この合計時間は最低時間数である。		
教科書	指定しない（授業中に適宜資料を配布する）。その都度、授業内容に適した参考書を指定する。		
参考文献	初回に紹介する。		
履修条件	『基礎情報処理演習』を受講済みであること、または「パソコンの操作ができ、かつエクセルソフトの操作経験を有すること」		
備考			

講義科目名称：体育理論（60410）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
鹿俣 修			
基盤教育群	保健体育		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	運動の必要性、運動の効果、運動の特性に基づいた運動のしかた等の基礎的な体育の知識を学習し身につける。そして、その知識と手法を日常生活に活用し、自分と集団の体力の向上と健康を高めることに寄与する能力と態度を養う。
授業計画	<p>第1回 スポーツの概念と歴史</p> <p>第2回 日本のスポーツの歴史(日本体育の父「嘉納治五郎」と「オリンピック」)</p> <p>第3回 健康の考え方</p> <p>第4回 生活習慣病と生活様式</p> <p>第5回 運動と健康</p> <p>第6回 発育発達期の運動プログラム</p> <p>第7回 「体力要素」と「体力測定(種類と意義、方法)」</p> <p>第8回 トレーニングの進め方とトレーニングの種類</p> <p>第9回 壮年期と健康</p> <p>第10回 ライフスタイルとスポーツ</p> <p>第11回 様々なストレッチングについて</p> <p>第12回 老年期と健康(加齢に伴う身体の変化)</p> <p>第13回 介護予防の為の運動①(認知機能とロコモティブシンドローム)</p> <p>第14回 介護予防の為の運動②(介護予防体操の作成)</p> <p>第15回 スポーツライフの設計</p>
成績評価・方法	テスト40%、レポート40%、授業への参加度20%
授業概要	運動、スポーツの文化的特徴や運動の必要性、各年代での安全且つ効果的な運動の方法、留意点等を学習する。又、健康の保持増進の為に日常生活でどのような点に注意を置き、どのような生活スタイルを身につけたらよいかについて資料等を通して学習していく。
実務経験及び授業の内容	米沢市介護予防推進員養成講座(米沢市)、飯豊町健康づくり事業(飯豊町)での講師の実務経験があり、この経験を生かし体育理論の授業を行う。
時間外学習	授業を踏まえて資料等を今一度読み直し、毎回の授業やノートやメモを整理すること。
教科書	資料を適宜配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：体育実技 I (60420)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
基盤教育群	保健体育		授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	実技を通じて、自ら実践していく能力を習得する。また、学生間のコミュニケーションの活性化やスポーツに親しむ態度を学習し運動を通じた健康の維持増進を理解する。
授業計画	<p>第1回 ストレッチングと有酸素運動（ウォーキング速度の設定）</p> <p>第2回 ストレッチングと有酸素運動（個人毎に設定した速度で ウォーキング）</p> <p>第3回 ストレッチングと有酸素運動（ウォーキングとジョギング）</p> <p>第4回 音楽に合わせた全身運動（動きの確認と低強度運動）</p> <p>第5回 音楽に合わせた全身運動（低強度運動と中強度運動）</p> <p>第6回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキング速度の設定）</p> <p>第7回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（個人毎に設定した 速度でウォーキング）</p> <p>第8回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキングと ジョギング）</p> <p>第9回 自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（運動負荷設定）</p> <p>第10回 自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（個人毎に設定した負荷で運動）</p> <p>第11回 器具を使った筋力トレーニング（負荷調整の習得）</p> <p>第12回 器具を使った筋力トレーニング（個人毎に設定し負荷で運動）</p> <p>第13回 バランスボールを用いた運動（個人で行う運動）</p> <p>第14回 バランスボールを用いた運動（グループで行う運動）</p> <p>第15回 自重負荷を用いた筋力トレーニング</p>
成績評価・方法	レポート50%、態度50%（理由、報告のない遅刻や欠席等）
授業概要	有酸素運動や筋力トレーニング、ストレッチングなどのフィットネストレーニングの技術を習得していく。講義期間を通して、自らの体調チェックや体力レベルを維持・増進したりできる手段を身につける。
実務経験及び授業の内容	様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育実技 I の授業を行う。
時間外学習	自分ができない技術やグループでの打ち合わせが必要であれば適宜行う。
教科書	特になし。必要な資料は授業時に配布する。
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：体育実技Ⅱ（60430）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
基盤教育群	保健体育		授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	様々なスポーツ種目の実技を通じて、自ら実践していく能力を習得する。また、学生間のコミュニケーションの活性化やスポーツに親しむ態度を学習し運動を通じた健康の維持増進を理解する。
授業計画	<p>第1回 インディアカ（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第2回 インディアカ（複数のチームを作り試合）</p> <p>第3回 ソフトバレーボール（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第4回 ソフトバレーボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第5回 ソフトバレーボール（複数のチームを作り試合）</p> <p>第6回 ユニホック（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第7回 ユニホック（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第8回 ユニホック（複数のチームを作り試合）</p> <p>第9回 バスケットボール（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第10回 バスケットボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第11回 バスケットボール（複数のチームを作り試合）</p> <p>第12回 卓球（基本的技能の習得）</p> <p>第13回 卓球（複数の対戦相手を設定し試合）</p> <p>第14回 バドミントン（基本的技能の習得）</p> <p>第15回 バドミントン（複数の対戦相手を設定し試合）</p>
成績評価・方法	レポート50%、態度50%（理由、報告のない遅刻や欠席等）
授業概要	球技やラケット競技などの個人スポーツ、チームスポーツ、ニュースポーツなど様々なスポーツを行う。各種目の最初では、ルール説明などを行い種目毎の特性を理解する。また、練習やゲームなどを通して身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツについて学習する。
実務経験及び授業の内容	様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育実技Ⅱの授業を行う。
時間外学習	自分ができない技術やグループでの打ち合わせが必要であれば適宜行う。
教科書	特になし。必要な資料は授業時に配布する。
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：心理学（60510）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
沼山 博			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：心理学入門</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 人間の感覚や知覚の特徴について説明できる。</p> <p>2) 人間の認知や学習・記憶のしくみについて説明できる。</p> <p>3) パーソナリティの心理学的な捉え方について説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 心理学とは</p> <p>第2回 人間の知覚(1) 感覚と知覚</p> <p>第3回 人間の知覚(2) 視覚</p> <p>第4回 人間の知覚(3) 聴覚</p> <p>第5回 人間の知覚(4) 味覚と嗅覚</p> <p>第6回 高齢者の知覚(1) 視覚と聴覚</p> <p>第7回 高齢者の知覚(2) 嗅覚、味覚、触覚</p> <p>第8回 人間の認知と学習(1) 認知のしくみ</p> <p>第9回 人間の認知と学習(2) 記憶</p> <p>第10回 人間の認知と学習(3) 学習</p> <p>第11回 行動変容の技法(1) 刺激統制</p> <p>第12回 行動変容の技法(2) 心理療法を参考に</p> <p>第13回 パーソナリティ</p> <p>第14回 ストレスコーピングとソーシャルサポート</p> <p>第15回 まとめ</p>
成績評価・方法	試験もしくは期末レポート60%、授業への取り組み（小レポート等）40%
授業概要	人間とかかわる際に必要な心理学的知識について概説する。まず人間の知覚や認知、学習の特徴や行動変容の技法について解説する。特に高齢者については詳しく取り上げる。また、人間とかかわる上で相手の人格をどうとらえるかがポイントの一つとなることから、パーソナリティの成り立ちや把握のしかた、ストレスの問題などについても取り上げる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布資料を用いて、予習・復習すること。
教科書	教科書は使用せず、講義資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。
参考文献	
履修条件	特になし。
備考	教材等の都合により、日程が変更になることがあります。

講義科目名称：コミュニケーション論（60520）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
沼山 博			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：体験を通して、自らのコミュニケーションをふりかえる</p> <p>到達目標：</p> <p>①グループワークやゲームを通して、自分自身やグループをふりかえることができるようになる。</p> <p>②人間関係を構築・維持・発展させていく方法について、自分なりに説明することができる。</p> <p>③集団による意思決定において、自分の意見や考えを表明し、コンセンサスを得ることができる。</p> <p>④カウンセリングの基礎的な考え方や技法について説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間のコミュニケーションの特徴や傾向（1）</p> <p>第3回 人間のコミュニケーションの特徴や傾向（2）</p> <p>第4回 人間のコミュニケーションの特徴や傾向（3）</p> <p>第5回 自分のコミュニケーションパターンを知る</p> <p>第6回 相手のコミュニケーションパターンを知る</p> <p>第7回 自分の意図や情報を相手に伝える（1）</p> <p>第8回 自分の意図や情報を相手に伝える（2）</p> <p>第9回 話し合いでコンセンサスを得る（1）</p> <p>第10回 話し合いでコンセンサスを得る（2）</p> <p>第11回 マイクロカウンセリングから学ぶ（1）</p> <p>第12回 マイクロカウンセリングから学ぶ（2）</p> <p>第13回 高齢者とかかわる（1）</p> <p>第14回 高齢者とかかわる（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>
成績評価・方法	期末レポート40%、授業への取り組み60%
授業概要	人間とかかわる際に必要なコミュニケーションに関する知識について、座学のみならず体験的に理解する。まず人間のコミュニケーションの特徴や傾向について概説する。そのうえで、ゲーミングシミュレーションやエンカウンターグループ等の手法を体験しながら、人間関係の構築、維持、発展のさせ方などを理解する。また、コンセンサス形成課題を通して、集団内で自らの意見や考えを発表し、集団としての意思決定も体験する。カウンセリングの基礎についても取りあげる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布された資料を用いて、復習を行うこと。ふりかえり課題がある場合はそれを行うこと。
教科書	教科書は使用しない。講義で適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。
参考文献	
履修条件	特になし。
備考	実際に人とかかわる場面があるので、その点に留意して履修すること。第13～14回については通常とは異なる時間帯等で実施する予定である。

講義科目名称：社会学（60530）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期（集中）	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
阿部 晃士			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	出生、学ぶ、働く、家族、病い・老い、死と、人びとが経験するライフイベントを取り上げ、その背後にある現代社会の特質と社会のしくみについて考察することをテーマとする。到達目標は、(1) それぞれのライフイベントを通して現代社会の特質やそこにいたる経緯を把握すること、(2) その社会現象がどのようなメカニズムで起きているのかを考察するため社会学の基礎知識と考え方を身につけること、(3) 今後の社会の変化について考察し、課題解決のための方策を自ら提案したり、その有効性を検討できるようになることである。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 出生 (1) なぜ子どもが生まれなくなっているのか</p> <p>第3回 出生 (2) 妊娠、出産という経験はどのように変わっているのか</p> <p>第4回 学ぶ／教える (1) なぜ学ぶことが「義務」になっているのか</p> <p>第5回 学ぶ／教える (2) 学校という場所はどのような場所か</p> <p>第6回 働く (1) 「働くこと」の社会的な位置づけ</p> <p>第7回 働く (2) 「社会」のなかで働くこと</p> <p>第8回 家族 (1) 近代化は家族をどう変えてきたのか</p> <p>第9回 家族 (2) 家族であるとはどのようなことか</p> <p>第10回 病い・老い (1) 統計学は医療とどうかかわってきたか</p> <p>第11回 病い・老い (2) 病むこと・老いることは、どのような経験か</p> <p>第12回 死 (1) 社会学は自殺をどう扱ってきたか</p> <p>第13回 死 (2) 社会において「死」はどのように見えるか</p> <p>第14回 科学・学問 (1) 社会学における理論と実証</p> <p>第15回 科学・学問 (2) 科学と社会はどのような関係にあるのか</p>
成績評価・方法	授業中の小レポート（40％）と試験（60％）
授業概要	社会学及びその関連領域には、研究手法として量的なアプローチと質的なアプローチがある。量的アプローチでは、大規模な社会調査を行い、そのデータを統計的に分析する。一方、質的アプローチでは、少数の事例や人びとを対象に聞き取り調査などを行い、その結果の意味を解釈する。この授業では、出生、学ぶ、働く、家族、病い・老い、死と、人びとが経験するライフイベントを取り上げ、そこにどのような課題があるか、量的アプローチと質的アプローチの双方から接近する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃から新聞やニュースに触れて、私たちが生活する社会の現状や課題について考えること。
教科書	筒井淳也・前田泰樹、2017、『社会学入門－社会とのかかわり方』有斐閣。（1,900円+税）
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：教育学（60540）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
安部 貴洋			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	教育に関する基礎的な事柄、教育史・教育思想、現代教育における制度・評価や教育問題等を学ぶ。到達目標は、以下のとおりである。①教育の基礎的な内容を理解し、説明できる。②教育思想とその歴史的展開、現代との関係を理解し、説明できる。③現代の教育制度、教育評価等を理解し、説明できる。④現代の教育問題に関して様々な考えを知り、自分の考えを発表できる。
授業計画	<p>第1回 授業概要の説明と授業計画 教育学とは何か</p> <p>第2回 教育と子ども 教育の概念と子ども観の変遷</p> <p>第3回 学校とは何か 近代学校の成立とその特徴</p> <p>第4回 教育の思想と歴史① ソクラテス、プラトン、他</p> <p>第5回 教育の思想と歴史② ヘルバルト、デューイ、他</p> <p>第6回 教育の思想と歴史③ 日本における教育思想</p> <p>第7回 学ぶということ 「学び」の歴史と現在</p> <p>第8回 教育の制度 各国の教育制度と日本の教育制度</p> <p>第9回 教育課程 カリキュラムの変遷と再定義</p> <p>第10回 教育評価 学力評価の展開と新しい動向</p> <p>第11回 特別支援教育 特別支援教育の歴史とその理念</p> <p>第12回 現代教育の課題① いじめ、不登校、自殺等</p> <p>第13回 現代教育の課題② 子ども虐待、体罰等</p> <p>第14回 諸外国の実践 シュタイナーとレッジョ・エミリア</p> <p>第15回 理解の確認と総括</p>
成績評価・方法	試験 40%、レポート 40%、発表 20%
授業概要	授業は、教育に関する原理的な問い、教育史と教育思想、現代の教育の三部から構成されている。第2回から第3回の授業において教育とは、学校とは、そして子どもとは何かを学ぶ。第4回から第7回までの授業において、ソクラテスやプラトン等の教育思想とその歴史的展開を学ぶ。第8回の授業以降、現代日本と諸外国の教育制度、カリキュラム、教育評価、そして「いじめ」や不登校といった教育問題を学ぶ。授業はグループワークを中心に展開する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で学んだことを日常生活と結びつけるような姿勢をもつこと。また、定期的にレポート課題等を課す。
教科書	使用しない。適宜、授業資料を配布する。
参考文献	田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』（東京大学出版会、2009年）
履修条件	
備考	

講義科目名称：法学（日本国憲法）（60550）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
堀田 学			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 日本国憲法の構造を理解する。 2. 憲法の規定に則って統治機構が動いていることを理解する。 3. 人権概念を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 憲法の基礎</p> <p>第2回 参政権</p> <p>第3回 国会</p> <p>第4回 内閣</p> <p>第5回 裁判所</p> <p>第6回 象徴天皇制</p> <p>第7回 平和主義</p> <p>第8回 人権総論 1（人権の理念と歴史）</p> <p>第9回 人権総論 2（人権の享有主体性）</p> <p>第10回 信教の自由と政教分離</p> <p>第11回 表現の自由</p> <p>第12回 経済的自由</p> <p>第13回 人身の自由</p> <p>第14回 社会権</p> <p>第15回 幸福追求権</p>
成績評価・方法	期末試験（100％）
授業概要	日本国憲法は、最高法規であるため様々な法律にもその理念が活かされています。日本国憲法は、身近な生活にもその理念は活かされています。この授業では、日本国憲法の意義と課題について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布したレジュメ等を授業が終わってから見直し、知識の定着を図ること。また、新聞やニュースを毎日チェックし、社会の動きに敏感になること。
教科書	駒村圭吾編『プレステップ憲法(第2版)』弘文堂、2018年
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：企業論（60560）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
松下 幸生			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	中小企業に対する基本的な政策の重点は、1999年、従来の「格差是正」から「市場競争の苗床」と「イノベーションの担い手」に移行した。この移行に象徴されるとおり、わが国の中小企業は業種による濃淡こそあれ変化に対応することを一層求められている。企業論では中小企業の多様性と諸課題について、授業計画に記している複数の視点から把握をする。そのうえで、中小企業が発展するための方向性を考えられることを目標にする。		
授業計画	第1回	中小企業の定義と特徴	
	第2回	産業集積地域の形成過程と特質	
	第3回	製造業における技術革新の変遷	
	第4回	中小流通業の構造変化（主に小売業）	
	第5回	中小流通業者の展望（主に小売業）	
	第6回	製造業の構造変化	
	第7回	製造業の展望	
	第8回	中小企業の海外展開	
	第9回	海外展開の進展が地域経済に与える影響	
	第10回	中小企業ネットワークの変遷	
	第11回	インターネット連携と産学官連携	
	第12回	中小企業における人材育成	
	第13回	グローバル化時代の地域振興と中小企業	
	第14回	第15回にするべき内容だが、レポートを課す都合上、第13回に実施する。	
	第14回	中小企業論における諸論議	
	第15回	中小企業政策の変遷	
成績評価・方法	レポート90%、講義参加度10%		
授業概要	パワーポイントを使う講義形式。 原則的に、紙の資料は配布しません。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	・PDFファイルの目次（2ページ目）を活用して下さい。予習、復習用のページです。なお、PDFファイルの取得方法は、「受講生へのメッセージ」を読んでください。		
教科書	吉田敬一・井内尚樹編著[2010],『地域振興と中小企業—持続可能な循環型地域づくり—』, ミネルヴァ書房. 吉田敬一・永山利和・森本隆男編著[1999],『産業構造転換と中小企業』, ミネルヴァ書房. 上記以外の参考資料を適宜使用する。		
参考文献			
履修条件			
備考			

講義科目名称：異文化理解（60570）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3・4	2	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この授業の目的は、自分と異なる文化を持つ人たちと比較するため、まず①各自の生まれた地域の文化について再確認することである。その上で、②異なる文化・価値観をもつ他者と、共生するためには何が大切なのかを考えたい。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 15回の授業内容や、中間発表（生まれ育った地元の文化の紹介）と最終発表（授業を通して関心を持った内容について）についての説明。	
	第2回	日本の中の異文化(1)ある小学校では… 日本にいる外国籍の子どもたちが抱える様々な問題について知る。	
	第3回	移民と難民 前回の外国籍の子どもの中には、親が難民の子どももいた。また、移民の人たちもいる。移民とは何か、難民とは何か、おさえる。	
	第4回	日本の中の異文化(2)ある朝鮮学校では… 日本にルーツを持たない子どもたちの中には、朝鮮半島にルーツを持つ子どもも多い。朝鮮学校に通う子どもたちの日常から、どのような問題があるか知る。	
	第5回	アイヌ・沖縄 日本にも、本土と異なる文化を持つ人たちがいる。アイヌの人たちや沖縄の人たちが抱える問題を知る。また、中間発表①を行う。	
	第6回	カナダの多文化主義の教育 カナダは多文化主義教育を積極的に行っている。今まで見てきた日本の状況と比較する。また、中間発表②を行う。	
	第7回	トルコ トルコは、地理的にヨーロッパとアジアの間にあり、さまざまな文化が昔から行き交っていた。さまざまな文化を背景に持つ人たちとの共生を探る。また、中間発表③を行う。	
	第8回	ジェンダー今昔 近代以降、「子育ては母親がするもの」という考え方が広まるが、それ以前の江戸時代はどうだったのか。歴史をさかのぼってみていくと、同じ日本でも全く異なった文化や考え方があったことを知る。また、中間発表④を行う。	
	第9回	日本の性的少数者(1)性同一性障害 多数派の人たちが見ている世の中と、少数派である人たちが見ている世の中は、見え方が違う。性的少数者の視点を通して、今の社会の問題を考える。また、中間発表⑤を行う。	
	第10回	日本の性的少数者(2)ダブルマイノリティ 性同一性障害であり身体障がいでもある方の活動を通して、少数派の中の少数派の問題を知る。また、中間発表⑥を行う。	
	第11回	日本以外の国・地域の性的少数者 外国では、性的少数者はどのように生きているのか。日本の状況と比較する。	
	第12回	外国における女性の立場と問題 マララ・ユスフザイさんの活動等を通して、過酷な状況にある女性の現状を知り、これら女性に対する支援や自立への取り組みについて知る。	
	第13回	発表① 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどを一人ずつパワーポイントで発表する。	
	第14回	発表② 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどを一人ずつパワーポイントで発表する。	
	第15回	発表③ 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどを一人ずつパワーポイントで発表する。	
成績評価・方法	発表（2回分で50%）、毎回の感想（30%）、レポート（20%）で評価する。		
授業概要	異なる文化を持つ者の「生の声」をなるべく聞くため、毎回ドキュメンタリー番組等の映像資料を用いる。また「異文化理解」とは何かを考えるため、発表を2回行う（なお、授業計画の第5～10回の半分の時間は個人発表にあって、第13～15回は発表の時間とする。）		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	自分の生まれ育った地域の文化について、調べておく。また、国内外の「異文化」について、日頃から新聞等で関心を持って見聞きすること。		
教科書	教科書は使用しない。		
参考文献	参考文献等は、その都度紹介する。		
履修条件			

講義科目名称：国際関係論（60580）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3・4	2	選択必修
担当教員			
堀田 学			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 この講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起こっている様々な事象を理解し、考察できるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 国際関係論の理論を理解する。 2. グローバルな課題を理解する。 3. 国際問題を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 国際関係論とは何か</p> <p>第2回 20世紀の国際関係 1（2つの世界大戦と国際関係）</p> <p>第3回 20世紀の国際関係 2（冷戦時代の国際関係）</p> <p>第4回 20世紀の国際関係 3（ポスト冷戦時代の国際関係）</p> <p>第5回 現代の国際関係(9・11以降の国際関係)</p> <p>第6回 国際関係理論 1（リアリズム）</p> <p>第7回 国際関係理論 2（リベラリズム）</p> <p>第8回 国際機関</p> <p>第9回 欧州統合</p> <p>第10回 民族紛争・宗教対立</p> <p>第11回 環境問題</p> <p>第12回 食糧問題</p> <p>第13回 安全保障</p> <p>第14回 日本外交</p> <p>第15回 これからの国際関係</p>
成績評価・方法	期末試験（100％）
授業概要	現代の国際社会は、グローバル化が進行する一方で、反グローバル化の動きやポピュリズムの台頭なども世界各地で起こっています。この授業では多角的な視座から世界を見ることができるよう知識を得ることを目標とします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュースを毎日チェックし、国際問題に関する知識を深め、関心を持ってください。
教科書	村田晃嗣ほか編『国際政治学をつかむ（新版）』有斐閣、2015年
参考文献	佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論（第2版）』弘文堂、2016年 滝田賢治ほか編『国際関係学（第2版）』有信堂、2017年
履修条件	
備考	

講義科目名称：微生物学（60611）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期（集中）	1	2	必修
担当教員			
熊田 薫			
教養養育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	生物学および進化の視点から微生物を理解する。次に食との関わりにおいて微生物を理解する。すなわち、発酵食品など有用な微生物、感染症や食中毒など有害な微生物について理解することを目指す。
授業計画	<p>第1回 地球史における生命の起源と微生物について考える</p> <p>第2回 微生物研究の歴史 微生物の発見から今日に至る微生物研究の歴史について考える</p> <p>第3回 微生物の分類 真正細菌、古細菌、真菌、原生動物、ウイルスなどについて分類学上の位置</p> <p>第4回 真正細菌と古細菌 その進化と分類学上の位置および真核生物のとの関係</p> <p>第5回 真菌の種類と分類 いわゆるカビ、コウボおよびキノコの分類と生態</p> <p>第6回 原生動物の特徴と分類と生態</p> <p>第7回 ウイルスとはなにか ウイルスの構造、遺伝子、宿主、増殖の特性等</p> <p>第8回 微生物の生態 微生物の多様な生息領域、環境および他の生物との関連</p> <p>第9回 地球環境と微生物 光合成微生物による酸素の産生と地球環境の変動および他の生物との関連</p> <p>第10回 細菌と食品、疾病 細菌を利用した発酵食品の概論および細菌による疾病概論</p> <p>第11回 真菌と食品、疾病 真菌を利用した発酵食品の概論および細菌による疾病概論</p> <p>第12回 ウイルスと疾病 ウイルスによる疾病と特徴</p> <p>第13回 トピックスⅠ RNAワールド、RNAの多彩な働き、進化生物学におけるRNAの役割について</p> <p>第14回 トピックスⅡ 納豆を作る細菌（枯草菌）の特徴と納豆の特徴について</p> <p>第15回 まとめ：全体のまとめおよび微生物に関するその時々話題を取り上げ、微生物学の見地から考える</p>
成績評価・方法	試験（90%）および授業中の発言や質疑（10%）
授業概要	生命の起源と微生物、一般微生物学、発酵食品と微生物、および感染症・食中毒と微生物をテーマとして全体を構成する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	必要に応じ基礎的な学習（高校の生物・科学）を復習すること。
教科書	新版 微生物と免疫 林修著 建帛社
参考文献	ブラック微生物学、林英生他訳
履修条件	
備考	

講義科目名称：自然科学 I（化学）（60620）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
大益 史弘			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	原子、分子、電子レベルの世界を学習し、物質の構造・性質について理解し、その上で物質同士の相互作用に関わる化学結合、化学変化（化学反応）のメカニズムについて学ぶ。さらに、様々な機能を有する有機化合物を主に取り上げ、その構造、反応、多様性について学ぶ。		
授業計画	第1回	物質の構成要素と原子の構造	
	第2回	元素の周期律と物質量	
	第3回	化学結合	
	第4回	液体と溶液の濃度	
	第5回	気体	
	第6回	化学反応と化学平衡	
	第7回	化学熱力学	
	第8回	酸・塩基と中和	
	第9回	酸化還元反応	
	第10回	無機化学	
	第11回	有機化学	
	第12回	高分子化合物	
	第13回	高分子化合物演習	
	第14回	環境と化学	
	第15回	環境化学演習	
成績評価・方法	テスト80%、授業への参加度20%		
授業概要	自然科学の一分野である化学は日常生活に非常に関わりの深い学問である。ここでは、ミクロな世界からマクロな世界に至る物質の世界を軸に段階的に学習する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「化学基礎」の教科書に目を通しておくこと。 ・物質を原子や分子レベルで理解できるようにしておくこと。 		
教科書	資料を適宜配布		
参考文献			
履修条件			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
佐塚 正樹			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	管理栄養士は人という「生物」を相手にしているので生物学の知識は必須である。そこで本講義では、高校時代、生物を選択しなかった学生でも理解でき、これから学ぶ栄養学の助けになるように細胞、組織、器官、器官系、個体の生物学および生理・生化学を中心に教授する。選択科目ではあるが、非常に重要な基礎科目なので高校時代、生物を選択したしなないに関わらず、全員の履修をお勧めしたい。
授業計画	<p>第1回 管理栄養士と生物学のかかわり 管理栄養士と生物学のかかわりを概説し、生物を定量的に捉える数学的な考え方も概説したい。</p> <p>第2回 細胞の種類と細胞内小器官 全ての生命は細胞が生きる単位であり今後学ぶ栄養学に必要な知識の細胞について解説する。</p> <p>第3回 単細胞生物、多細胞生物およびウイルス 単細胞生物、多細胞生物とウイルスを分類する。この回は生理学と解剖学の基礎知識にもなる。</p> <p>第4回 生命体に必須の物質 管理栄養士に必要な化学物質：五大栄養素と水について解説する。</p> <p>第5回 遺伝子の構造と機能 「体質」は遺伝的特徴である。分子生物学と古典的遺伝学(メンデルの法則)の基礎を解説する。</p> <p>第6回 生体エネルギー①解糖系・クエン酸回路・電子伝達系 なぜ我々は、生きていられるのか？管理栄養士の必須学問：代謝生化学の基礎知識を教授する。</p> <p>第7回 生体エネルギー②代謝側路 ヒトの解糖系・クエン酸回路・電子伝達系以外の代謝側路の重要性と役割を紹介する。</p> <p>第8回 生命エネルギー③酵素の役割 グルコースや脂肪酸がエネルギーになるのは理解できたとして、一つ一つの反応はどう進むのか？グルコースの塊≒木は火がつくと酸化する(燃焼反応)。しかしヒトは酵素(生体触媒)のおかげで、燃焼反応と同等の酸化が37℃(体温)で可能である。その酵素の解説を行う。</p> <p>第9回 光合成と窒素同化 植物系の微生物から草花・木々が有する光合成と窒素同化の仕組みを紹介する。</p> <p>第10回 細胞分裂とがん 細胞は、生命体の複雑化や新たな生命が発生して受け継がれるための重要な仕組みである細胞分裂が行える。細胞分裂と細胞の異常増殖(がんなど)の基礎知識を学ぶ。</p> <p>第11回 生殖 細胞分裂を理解したところで、生殖の基礎を学ぶ。主にヒトの生殖を解説する。</p> <p>第12回 ホメオスタシスの基礎① ヒトを中心にホメオスタシスを解説する。この回は生理学の基礎知識となる。</p> <p>第13回 ホメオスタシスの基礎② 前回の続きホメオスタシス(特に肺、膵臓、肝臓や腎臓の基礎的な役割)について解説したい。</p> <p>第14回 免疫 食物アレルギーを理解する上で必要なヒトの免疫について参考書籍を紹介して概説する。</p> <p>第15回 生命倫理と総まとめ バイオテクノロジー時代の生命倫理を概説する。そして本講義の総まとめを行う。</p>
成績評価・方法	テスト80%，授業態度・レポート20%
授業概要	管理栄養士は内科医相当の生化学・生理学の知識が必要なので、生化学・生理学を理解するための基礎知識を本講義で教授する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	将来の生化学・生理学・栄養学の勉強の助けになるように本学図書館電子書籍Ya-Sa-Shi-I biological Science (本講義教科書：やさしい基礎生物学第2版English ver)を参考に英語(専門用語や図表、前置詞)になれることを推奨します。
教科書	南雲保編著、やさしい基礎生物学第2版羊土社
参考文献	①Trudy McKee/James R. McKee(著)福岡伸一(翻訳)マッキー生化学 一分子から解き明かす生命―第6版 化学同人 ②河本宏著、マンガでわかる免疫学、オーム社 ③武村政春著、マンガでわかる生化学、オーム社 以上3冊は、すべて本学図書館電子書籍で閲覧可能
履修条件	
備考	

講義科目名称：自然科学演習（60640）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
大益 史弘			
教養教育群	人間と自然		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主に化学を背景とした演習によって自然現象を理解し、創造力を育成する。具体的には、飲料水の理化学的試験、高分子実験、イオン化傾向等をテーマとして、実験に関する基本的知識と技術を習得する。実際に我々の身の回りで日常的に起こっている自然現象を中心に持ち上げ、それらの出来事を自然科学的に捉え、さらには説明することができることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 物質の三態演習（液体）</p> <p>第2回 物質の三態演習（固体）</p> <p>第3回 物質の三態演習（気体）</p> <p>第4回 軟水と硬水</p> <p>第5回 カルシウムとマグネシウム</p> <p>第6回 水質検査（硬度）</p> <p>第7回 酸化還元反応演習（銅と銀）</p> <p>第8回 酸化還元反応演習（鉄と銅）</p> <p>第9回 酸化還元反応演習（化学電池）</p> <p>第10回 高分子化合物演習（炭水化物）</p> <p>第11回 高分子化合物演習（塩酸による糖化）</p> <p>第12回 高分子化合物演習（アミラーゼ）</p> <p>第13回 環境化学演習（空気）</p> <p>第14回 環境化学演習（環境水）</p> <p>第15回 環境化学演習（飲料水）</p>
成績評価・方法	テスト80%、授業への参加度20%
授業概要	化学および生物学の内容をよく理解した上で、さらなる基本的知識と応用力を習得しながら、予測した結果を得て考察する自然科学を探究するためのプロセスの一部を経験する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実験内容をよく理解して臨むこと。 ・実験結果から考えられることを調べておくこと。
教科書	資料を適宜配布
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：統計学（60650）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
鈴木 久美			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本講義では、定量的な分析の基礎となる統計理論を学習し、記述統計および推測統計の両方を利用できる能力を養うことを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・統計学の基礎</p> <p>第2回 母集団と標本・ヒストグラム①：度数分布表の作成</p> <p>第3回 ヒストグラム②：ヒストグラムを描く・分布の特性値①：分布の中心をあらわす値（生データの場合）</p> <p>第4回 分布の特性値②：分布の中心をあらわす値（級別データの場合）</p> <p>第5回 分布の特性値③：分布のばらつきをあらわす尺度（生データの場合）</p> <p>第6回 分布の特性値④：分布のばらつきをあらわす尺度（級別データの場合）</p> <p>第7回 確率分布①：標準正規分布</p> <p>第8回 区間推定①：母分散が既知の場合</p> <p>第9回 区間推定②：母分散が未知の場合</p> <p>第10回 仮説検定①：検定の考え方</p> <p>第11回 仮説検定②：母平均に関する検定</p> <p>第12回 仮説検定③：二種類のエラー</p> <p>第13回 確率分布②：χ二乗分布</p> <p>第14回 区間推定③：母分散の推定</p> <p>第15回 総復習</p>
成績評価・方法	テスト100%
授業概要	テーマとなる統計の概念を学習した後、実際に簡単なデータを利用して統計処理の練習を行う予定です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：特に必要としません。 復習：学習した知識の定着のため、練習問題を解くことを勧めています（30分～1時間程度）。
教科書	縣俊彦『やさしい保健統計学[改訂第5版]』
参考文献	東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会（1,800円＋税） 佐藤敏雄・村松幸『やさしい医療系の統計学[第二版]』医歯薬出版株式会社（3,000円＋税）
履修条件	1回目の講義には必ず参加すること。 電卓（ルート必須）を利用します。
備考	